

# 「愛知県江南市立布袋中学校の部活動改革」

**アンケートを基に教員・生徒等で話し合い、平日3日の活動、第3土日は休養日。平日の活動は80分までに。**

## 〈基本情報〉（令和5年4月現在）

学校名：江南市立布袋中学校	学級数：18学級（うち特学3学級）	生徒数：623名
部活動数：運動部9部（軟式野球・ソフトボール・サッカー・水泳・ソフトテニス・陸上駅伝・バスケットボール・バレーボール・剣道）		
文化部5部（吹奏楽・美術・茶華・パソコン・文芸）		

## 〈取組の概要〉

### ○ 令和4年度 「部活動を考える会」

よりよい活動環境を支えていくために、部活動の在り方や生徒が主体的に活動するための方策等について話し合う「部活動を考える会」を立ち上げ、「部活動に関するアンケート」を基に、意見交換を行った。



冬場の時間が無い中で優先すべき活動は授業であり、日課を工夫することで部活動の時間を確保することや生徒が主役の部活動とすること、顧問不在時には別の教員が見守る体制を作ることで活動機会を保障することなどのアイデアが出された。



「考える会」の様子

〈参加者〉 職員、学校運営協議会長、PTA会長、外部指導者、生徒等

〈開催回数〉 6回

〈アンケート結果〉 生徒の希望を調査したところ、平日の部活動の回数は「週3回」、1回の活動時間は「1時間～1時間30分」が最多

### ○ 令和5年4月 休養日・活動時間の見直しと「チーム顧問制」の開始

〈休養日・活動時間〉 アンケート結果をもとに、平日の休養日を1日増やし、活動は「火・水・金」の3日間、活動時間は80分までとした。また、第3土曜日・日曜日は休養日とし、土日は月3回までの活動とした。

また、生徒自身が考える場面を増やすため月に1度「部長会」を開催し、各部の生徒が意見交換を行うほか、生徒主体の活動を目指し、顧問は子どもたちの活動を見守るアドバイザー役とすることとした。

〈チーム顧問制〉 運動部を活動場所ごとに3チーム、文化部を1チームにまとめ、各チームに6～12人の顧問を配置した。出張等で顧問が不在となる際は、チーム内で部をまたいで支援し、生徒が活動できるようにした。

## POINT



活動時間や休養日についての生徒の希望を調査し、その結果を基に生徒等と共に部活動の在り方を検討し、スケールダウンを図りつつ、「生徒主体の活動」とすることで生徒のやりがいのある活動を確保。

〈参考1〉部活動を考える会の議事録

「考える会」で話し合った内容を保護者や地域に伝えるために、イラストや吹き出しを用いながら、議論を可視化した議事録を作成している。

**2022年 部活動を考える会（第2回） 江南市布袋中学校 （後半）**

**【前半をうけて】**  
 校長 〇みんなて決めていい  
 〇ここにいない人も含め職員会議へ

**安全管理を子どもに身につけるように。**  
 〇そもそも2人で100人見切れない。  
 何かあれば、連絡する。方法も職員室へ

**【複数顧問について】**  
 〇アール等：安全のために複数で。男女のために2人(女性職員も?)  
 〇人数少なければ1人でも見える ← 多い場合2つ以上だと複数  
 〇そもそも「子どもが主体的に」ならば先生が入る必要はなさなければ? (そうでない部もある)  
 〇はじめにルールや材料をわけておく必要がある  
 〇子どもが自分で分かって、考えて一生懸命取り組む = 楽しい (こっちの方が)  
 〇「授業と同じ?」 → 活動で主体的はできる ← 技術は少ししかう  
 〇「放置と主体的はちがう...」  
 〇「知らないスポーツを専門的・主体的に教えられない...」

**主体的に考えて、コミュニケーションし、楽しめる部活動力にしていこう!**  
 ↳ 布袋中がつけさせたい力はココ!! そう説明できるように  
 ↳ 「次のメニューは何?」「次は?」「次は?」 (先生が抜けたら練習もできず、安全でもない状態)  
 ↳ 主体的に楽しく、考える力を伸ばせるように保ご者もいっしょにチームで進めていきたい!! (本極は地域移行)

校長 〇部活がつかった記憶・勝てるように...  
 〇先生の一番は授業。  
 〇子どもの声(ニーズ)を大切にしてくれているのかうまい。  
 〇苦手な子も楽しめる、アロを月指すならクラブチームへ。  
 〇また一緒に考えていきましょう!

勝ちにつなげてほしいという保ご者の期待 (勝ち・スポーツチーム級のスキル)

〈参考2〉「チーム顧問制」のグループ分けの概要

区分	部活動		指導者
運動部	A	軟式野球・ソフトボール・サッカー	8名
	B	水泳・ソフトテニス・陸上駅伝	12名
	C	バスケットボール・バレーボール・剣道	10名
文化部	D	吹奏楽・美術・茶華・パソコン・文芸	6名

※ 大会参加等の外部対応が必要な部には担当者を置いている